

原 著

## 急性胆嚢炎に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術の治療成績

白井 順也<sup>1)</sup>, 原田 浩<sup>1)</sup>, 藤川 善子<sup>1)</sup>, 五代 天偉<sup>1)</sup>,  
熊切 寛<sup>1)</sup>, 小泉 泰裕<sup>1)</sup>, 深野 史靖<sup>1)</sup>, 田村 功<sup>1)</sup>,  
鈴木 紳一郎<sup>1)</sup>, 湯川 寛夫<sup>2)</sup>, 利野 靖<sup>2)</sup>, 益田 宗孝<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 藤沢湘南台病院 外科,

<sup>2)</sup> 横浜市立大学附属病院 外科治療学

**要 旨:** 当院では急性胆管炎・胆嚢炎のガイドラインに従い, 急性胆嚢炎と診断した患者に対し, 入院当日又は翌日に緊急腹腔鏡下胆嚢摘出術 (Laparoscopic cholecystectomy, LC) を行っている. 2006年7月から2009年11月までに緊急 LC を行った32症例を対象とし, 年齢, 性別, 発症から手術までの日数, 手術時間, 出血量, 術後在院日数について検討した. 症例は平均65.4±11.1歳 (男性24人, 女性8人). 発症から手術まで72時間以内の症例 (E群: 18例), 72時間以降の症例 (L群: 14例) に分け, 手術成績を比較したところ, 手術時間においてE群はL群に比べ有意に短くなった ( $p=0.024$ ) が, 年齢, 性別, 出血量, 術後在院日数において有意差は認めなかった. また, 重症度別に分類すると重症19例, 中等症5例, 軽症8例であり, 重症な症例ほど発症からの日数は長く ( $p=0.003$ ), 手術時間は長時間となった ( $p=0.045$ ). 合併症は腹腔内膿瘍1例と胆汁漏1例を認め, L群, 重症群であった. 発症早期の症例と比較し, 発症から日数の経っている症例又は重症例では手術難易度が上がり合併症も増えるため, 慎重な対応が要求される.

**Key words:** 急性胆嚢炎 (acute cholecystitis), 腹腔鏡下胆嚢摘出術 (Laparoscopic cholecystectomy)